

▲株式会社ウェーブロック・アドバンスト・テクノロジー

めっき・塗装からフィルム成形へ、自動車の進化を下支え ——電波と光線を透過する金属調加飾フィルムで自動運転が容易に

ここに
注目!

異なる特徴を持つ素材を最適な「組み合わせ」で複合化し付加価値生む
2024年3月期売り上げは59億円を計画、100億円目指し土台づくり

株式会社ウェーブロック・アドバンスト・テクノロジーは、東証1部に株式上場するウェーブロックホールディングス株式会社的全額出資会社だ。異なる特徴を持った素材を最適な組み合わせで複合化して提供し、付加価値のある製品を生み出している。中でも金属調加飾フィルムは、電波と光線を透過するので自動車の安全・自動運転システム構築が容易になるうえ、めっきや塗装よりも地球環境に優しい。SDGs（持続可能な開発目標）によって二酸化炭素（CO₂）を排出しない電気自動車（EV）などへの転換が進んでおり、同社には追い風が吹いている。

「CASE」で事業拡大の好機、米、独の現地法人・名古屋工場立ち上げ

金属調加飾フィルムは、金属と樹脂を組み合わせたフィルム（テープ、シート）の樹脂部分を押出機内で溶かして成形したり、型に流して射出成形したりする。「市場は2005年ごろに2億円し

かなかった。10年ごろにマツダに漆調の内装で採用していただいた。当時は売り上げの7～8割がマツダ向けだったが、改良・改善対応と並行して開発を進め大変だった」（島田康太郎代表取締役兼執行役員社長）。それが今では、スマートエントリーシステム対応のドアハンドルや、レクサスのホイールキャップ、リンカーンのフロントエンブレム、シボレーのエンブレムなど一般的に使われるようになった。カラーバリエーションは「100色以上ある」（島田社長）ので、ゼロハリパートンブランドの旅行鞆やテレビなど家電分野にも採用されている。

自動車の内外装の装飾と言えば、長年、めっきと塗装が代表格として君臨している。しかし、30年をゴールとする国際社会共通のSDGsにより、有害性が議論される物質が一部に含まれるめっきと塗装には逆風が吹いている。自動車の技術トレンド「CASE」（接続・自動運転・シェアリング・電動化）によってデザインも大きく変わる。金属調加飾フィル

ムには防錆性に加え、電波・光線透過性、カラーバリエーションという“武器”がある。とくに自動運転には電波透過性が不可欠であり、ウェーブロック・アドバンスト・テクノロジーは事業拡大の好機を迎えている。

このため同社は「18年に米国現地法人と、パーツ製造の名古屋工場、19年にはドイツ現法をそれぞれ立ち上げた。川下に出ることでフィードバックが早くなり、ノウハウも蓄積できる」（島田社長）と布石を打った。技術・デザイン開発面では鋼板加飾、広幅供給、成形性向上などに注力し、市場創出を目指す。

品質管理・材料開発で優位性さらに、EV加速の欧米・中国の販売強化

ウェーブロックホールディングスは21年6月に中期経営3カ年計画を公表した。この中でウェーブロック・アドバンスト・テクノロジーについては、最終年度の24年3月期に売上高59億円（21年3月期は41億円）、営業利



本社受付



加飾フィルム・パーツの採用事例



古河工場の技術スタッフ



国内展示会出展の様子



北米現地法人（デトロイト）のチームメンバー

益5億円（同7,000万円）を計画し、営業利益率8.5%と8%台に乗せる見込みだ。「塗装は環境問題があるので、海外のEVメーカーは使いたくない。一段上の品質保証とし、この3年で売上高100億円への土台をつくる」と島田社長は売上高100億円を視野に入れる。

具体的な事業戦略は①技術開発・製造基盤の整備への投資②強固な品質管理システムの構築③海外（北米・欧州・中国）の販売力強化—の3点。「フィルム材料は特殊だ。製造できるメーカーは世界的にも数少ない。この3年で材料開発をさらに加速し、技術的な競合優位性を確固たるものとする」

（島田社長）。古河工場（茨城県）で製造している金属調加飾フィルムでは、電波・光透過、環境負荷低減だけでなく、耐候性・耐薬品性等の性能を付与して車の外装案件を獲得していく。また、一関工場（岩手県）で製造している車載用ディスプレイパネル用シートでは、パネルの曲面化、大型化、タッチパネル化やヘッドアップディスプレイの搭載増加を受け、表面硬度と耐衝撃性の相反する物性を両立させたPMMA（アクリル樹脂）/PC（ポリカーボネート樹脂）二層シートなどを拡大する。

EV化は欧米、中国で加速しており、現状の売り上げは「すでに日本よりも海外の比率が大きい」

（島田社長）。とくに中国はEV・ディスプレイ分野で世界最大の市場となる見通しで、中国およびグローバル案件の取り込みがカギを握る。一方、日本は「系列が壁になっている」（島田社長）。このため事業成長のスピードは欧米、中国のほうが速くなりそうだ。

ウェーブロック設立57周年の21年6月1日、島田社長はタブロイド誌に「世の中に求められる小粒でピリッとした製品を創り続ける」と書いた。素材と素材を組み合わせて新しい価値を生む同社のDNAは、新型コロナ対応の飛沫防止フェイスガードを誕生させてもいる。

わが社を語る

代表取締役 兼 執行役員社長
島田 康太郎氏



「白地に絵を描く」チャレンジによって、夢を実現できる会社

新しいものを生み出していく当社の事業は、答えがない中でやっており、「白地に絵を描く」ことが求められます。そこで大事にしているのは「メンバー一人ひとりがやりたいことと、当社がやりたいことがマッチできていること」です。メンバーはどの方向に行くか、戦略を考えながら勉強やチャレンジを行い、夢を実現していったほしい。それができる会社です。

そのために、半年に1回はメンバーにやりたいことを聞いています。考課

は、1年でやるべきことを4項目くらい選んでもらい、「チャレンジできたか」「進めているか」「成果は出たか」を評価します。メンバーには「失敗しても成功しても泣ける仕事をする」という思いで取り組むよう求めています。泣けるほどやったら、必ず次につながるからです。「立ち止まることは悪だ」というカルチャーが根付き、コロナ禍でも台東、つくば、川口の3つのサテライトオフィスが機能して変化に対応できるようになりました。

会社 DATA

所在地：東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー13階
設立：2010（平成22）年4月1日
代表者：島田 康太郎
資本金：1億円
従業員数：90名（2021年4月30日現在）
事業内容：合成樹脂、各種材料の加工・販売およびコンサルティング
URL：<http://www.wavelock-at.co.jp/>

